

農家の親に対する子どもの誇りに関する考察

—親の背を映す誇り育成装置「おやのせなか」の制作—

情報メディア学科 大島 直樹ゼミ

1022053

飛田 翔逸

1 はじめに

現代は仕事の選択肢が豊富にあるため、農家の子どもは家業をないがしろにしやすい。これを解決する手段として、有光は『認定農業者親子間の就農誘導と就農意欲』の中で、親の生き生きとした姿を見て農家へのイメージが良くなる可能性を示唆した[1]。農家の子どもには最初から就農を除外するのではなく、親に誇りを持つことで家を継ぐことも選択肢の1つとして感じてもらいたい。

本研究の目的は、農家の子供に親への誇りを持たせることである。

2 誇りの定義

誇りとは、名誉に思うこと、自慢することとされている[2]。しかし、誇りに関する国内における心理学的知見はほとんどなく、定義は定まっていない[3]。そのため、人それぞれが違う意味で誇りを解釈し、誇りを持つ過程もさまざまである。

そこで親に対する誇りを「威厳や優しさを感じ、感謝すること」と定義した上で、誇りを持つまでの過程を調査した。

対人関係で誇りを持つためには、相手をよく観察し、偉大なものとして意識する必要がある。そこで、観察や意識する手段として、察することに着眼する。察するとは、誰かを観察して「元気そうだな」「疲れているのか

な」などと他人のことに気づくことである。正確な情報を押し付けるのではなく、相手に対して多くのことを察することで深く意識、理解し相手のイメージを自己形成していくことで誇りを持つことができる。

3 誇り育成装置の開発

3.1 誇り育成装置

誇り育成装置とは、使用者に誇りを持たせるために提案する装置である。本研究では親に対して誇りを持たせるための情報源として背中を用いる。子は親の背中を見て育つと言うように、背中とは時として言葉より多くのことを語るものである。親に対する子どもの誇り育成装置を制作する際、親の威厳を具体的に示すよりも、抽象的な表現で子どもに考えることを促す背中を利用した方が、効果があると想定した。

3.2 背中からの印象

背中からでも誇りを持てるかを検証するため、18歳以上の25人に対して「人物の印象」についてアンケートを実施した。人の写真を後ろ姿、前の姿の順に見させ元気、楽しい、威厳、優しい、誇りの5項目それぞれを思うか思わないかを5段階で評価させた。その結果、前の姿より後ろ姿の方が4つの項目で標準偏差の値が小さいため、受け取る印象にばらつきが少なく、評価の手段として後ろ姿が

有利であることがわかった（表1表2）。また、後ろ姿と前の姿との差を比較すると、受け取る印象はほとんど変わらない（表3）。以上から背中からでも誇りを感じ取れるという結論にいたった。

	元気	楽しい	威厳	優しい	誇り
思わない1	7	9	1	1	0
2	13	14	6	4	8
3	2	2	6	4	9
4	2	0	9	13	7
思う5	1	0	3	3	1
平均	2.08	1.72	3.28	3.52	3.04
標準偏差	1.02	0.6	1.08	1.02	0.87

表1 後ろ姿

	元気	楽しい	威厳	優しい	誇り
思わない1	5	3	0	1	0
2	10	10	6	7	6
3	4	4	7	5	10
4	2	3	6	7	6
思う5	4	5	6	5	3
平均	2.6	2.88	3.48	3.32	3.24
標準偏差	1.33	1.34	1.1	1.19	0.95

表2 前の姿

	元気	楽しい	威厳	優しい	誇り
変化なし0	11	12	11	5	12
1	7	3	10	7	8
2	3	4	2	10	4
3	2	4	2	2	1
正反対4	2	2	0	1	0
平均	1.08	1.24	0.8	1.48	0.76
標準偏差	1.26	1.39	0.89	1.02	0.86

表3 後ろ姿と前の姿との差

3.3 誇り育成装置「おやのせなか」

「おやのせなか」は扉、カメラ、パソコン、モニターで構成する。モニターは扉に取り付けられている(図1)。カメラは扉の内側に配置し、背中を撮影できるようにする(図2)。

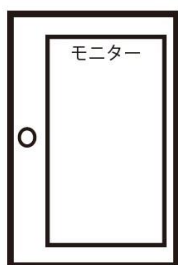


図1 扉の構成

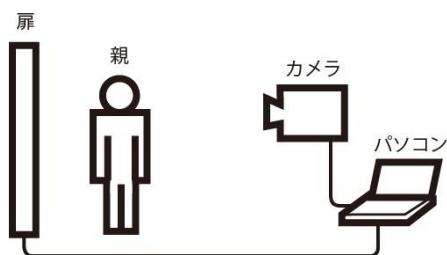


図2 「おやのせなか」の配置

「おやのせなか」の動作は

- ① 親が扉を開く
- ② カメラが動きを感知し、自動撮影する
- ③ 撮影した画像をモニターに表示する

の段階を経て扉に親の背中を映し出す。

子どもは毎日映し出される親の背中を見ることで、親の日々の変化、苦勞に気づき感じることで察する力を向上していく。

4 検証

装置を使用するには玄関の改装が必要なため、親の背中を毎日撮影しパソコン画面で見せる検証を行った。11歳から15歳の子どもを持つ農家の親子3組に1週間検証を行った結果、3名とも親の様態の変化を十分に感じることができた。また、検証前と検証後では子ども2名が親に対して威厳、優しさ、誇りを感じる度合いが上昇した。

5 まとめ

背中からでも親の日々の変化を感じ察することができた。また、継続的に背中を見ることで誇りを持つことができることが明らかになった。以上の知見をもとに誇り育成装置「おやのせなか」は、農家の子供に親に対して誇りを持たせることができる。

参考文献

- [1] 藤崎浩幸, 認定農業者親子間の就農誘導と就農意欲,
http://repository.ul.hirosakiu.ac.jp/dspace/bitstream/10129/4987/1/NoseiGakuHokoku_8_52.pdf, 参照Des.18, 2013
- [2] 日本国語大辞典 第2版, 小学館, 2001
- [3] 有光興記, 誇りに関する最近の研究動向, 駒澤大学心理学論集, 2008, 第10号, 57-64